



「2010 年度日本 OSS 貢献者賞、 日本 OSS 奨励賞」

募集要領

2010 年 7 月 15 日

独立行政法人 情報処理推進機構

日本 OSS 推進フォーラム

1. 概要

独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) では、オープンソフトウェア・センターを中心に、オープンソースソフトウェア (以下、OSS という) の利用と開発促進のための様々な課題解決に取り組んでいます。そのなかで、OSS 開発者や OSS コミュニティで活躍する人材を育てていくことが重要であるとの認識を持ち、外部の有識者の参加を得て、その施策等について様々な検討を重ねているところです。

日本そして、世界において、オープン・共同タイプの開発が浸透する中で、国際的なコミュニケーション能力や提案能力を持ち、コミュニティでの開発能力を持つ人材の重要性が高まっています。コミュニティ型の共同開発が多く行われている OSS を活用した人材育成は、グローバルなオープンイノベーションを主導しあるいは取り込んでいるために、重要性をいっそう増しています。

今般、昨年に引き続き「2010 年度日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励賞」を実施することになりました。

「日本 OSS 貢献者賞」は、2005 年度に独立行政法人 情報処理推進機構と日本 OSS 推進フォーラム¹によって、日本における OSS 開発の振興を図ることを目的に、影響力のある開発プロジェクトを創造、運営した開発者やグローバルプロジェクトにおいて活躍する卓越した開発者及び普及に貢献した方を表彰するものとして創設されました。

「日本 OSS 貢献者賞」は、2005 年度からこれまで 5 回の表彰を行い、20 名の卓越した開発者および普及に貢献された方々に本賞を授与してまいりました。この 5 年の間に、OSS は企業システム、政府・自治体のシステムに浸透してきました。また、組み込み分野においても確固たる地位を確保しています。受賞者を含め、日本からグローバルへあるいは、グローバルから日本へ新技術を提案するといった事例が多くなってきております。

「日本 OSS 奨励賞」は、OSS の普及、浸透に伴って、若手の参画や、プロジェクト、コミュニティの拡大が進んでいる中、影響力のある開発プロジェクトや普及活動に着目するだけでなく、新たな広がりの中で活躍する開発者や、普及活動に努力している若手やグループを表彰することにより、さらなる活躍を推奨することが、これからの OSS 開発者や OSS コミュニティで活躍する人材育成に有効であるとの考えで 2009 年度に新たに創設されました。

「日本 OSS 奨励賞」は、概ね直近の 1 年間において優れた成果を出した個人またはグループの方々を表彰することで更なる活躍を奨励するものですが、2009 年度は個人 6 名、2 団体が賞を授与されました

本募集要領により、2010 年度日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励賞の表彰対象の候補となる方を募集いたします。

主催 : 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)
共催 : 日本 OSS 推進フォーラム

¹日本 OSS 推進フォーラム : 国内情報システムのベンダ、ユーザ、学識関係者などが参加し、OSS 活用上の課題について、自由な立場から議論を重ねながら、課題解決に向けて取り組んでいます。活動は課題ごとに部会を設置して実施しています。独立行政法人 情報処理推進機構 (理事長: 藤江 一正) が事務局を務めています。 <http://www.ossforum.jp/>

○賞の概要

・各賞の対象者、対象分野

・日本 OSS 貢献者賞

以下の OSS 開発分野、OSS 普及促進分野において特に優れた業績を出された個人

A. OSS 開発分野

世界・日本における OSS プロジェクトにおいて影響力のある開発プロジェクトを創造、運営したり、卓越した開発者として活躍するなど中心的な役割を果たしている方を対象とします。開発基盤や OS・ミドルウェア、アプリケーション、デスクトップ、サーバ、組み込み分野など幅広い分野の中で活躍する OSS 開発者が対象です。

B. OSS 普及促進分野

OSS の発展・普及に大きく貢献した方、OSS コミュニティやマーケットに大きな影響を与えた方を対象とします。コミュニティの形成、OSS の認知、ドキュメンテーション、人材育成、標準化などに大きく貢献された方が対象です。

・日本 OSS 奨励賞

OSS の開発、普及において、概ね最近の 1 年間に特に優れた成果を出した、あるいは活動した個人ないしはグループ

※ 但し、両分野ともに、現在も日本で活動を継続している方を対象とします。

○募集期間

2010 年 7 月 15 日(木)から 8 月 31 日(火)まで受け付けいたします。

○候補者の推薦方法

自薦、他薦を問わずどなたでも応募できます。

「2010 年度 日本 OSS 貢献者賞、日本 OSS 奨励者賞」 候補者推薦募集について

<http://www.ipa.go.jp/software/open/osscc/2010/contribute/ossaward2010.html>

■本件に関するお問い合わせ先

独立行政法人 情報処理推進機構 オープンソフトウェア・センター 企画グループ 伊藤

Tel: 03-5978-7507 Fax:03-5978-7517 E-mail: osscc-award2010@ipa.go.jp

2. 審査概要

2.1 審査方法

審査は、産・学におけるメンバーで構成された審査委員会が行います。

審査委員会については、「5. 審査委員会」を参照してください。

2.2 審査基準

2.2.1 日本 OSS 貢献者賞

候補者が OSS の発展に寄与したことを審査するために、次の 4 つの審査項目を重視します。

(1) 参画する OSS プロジェクトの規模・普及度

世界あるいは日本において多数の開発者・利用者が存在すること。

ディストリビューションに標準的に採用されていたり、開発コミュニティが活発であること。

(2) 参画する OSS プロジェクトにおける候補者の役割と責任の大きさ

参画する OSS プロジェクトを主導したり、重要な役割を担っていること。

(3) 候補者個人の OSS 普及に対する貢献度

普及活動とは OSS 普及団体や標準化団体等における活動を指し、その普及活動を主導したり、大きく貢献していること。

(4) 候補者個人の OSS コミュニティに対する貢献度

参画する OSS プロジェクトの活動を越え、日本あるいは世界の OSS コミュニティに対して貢献を行っていること。

また、以下の項目は審査においてプラス要素として考慮します。

●新規性

新しい情報技術を取り入れた OSS であること、あるいは OSS 分野において初めて実用化あるいは普及した OSS であること。

●市場への波及効果

参画するプロジェクト・活動が、OSS ビジネス市場において広く利用され、ビジネス上の重要な要素となっていること。

2.2.2 日本 OSS 奨励賞

OSS に関する活動を行う個人やグループが、以下の何れか、あるいはその複数において卓越した成果をこの一年間挙げているかを重視して審査を行います。

(1) 活動の範囲と期間における活発度

OSS に関するプロジェクト等において、開発活動ないしは普及に寄与する活動に従事しており、この一年間の活動が活発であり成果をあげたこと。

(2) 開発した OSS プロダクトの有用度、ないしは普及貢献の有用度

活動する OSS プロジェクトの成果となるソフトウェアの有用度に卓越した点が認められる、ないしは OSS 普及に寄与する活動において、利用者ないしは開発者にとって有用であったこと。

(3) 活動の模範性、将来性

開発ないしは普及に寄与する活動が、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて模範となっていること。また、他の OSS 開発者や OSS 利用者からみて活動の発展に対する期待を抱かせるなどにより、将来性が高いこと。

(4) 知名度、若手育成度

グループの知名度が高く、OSS 普及や OSS 開発の発展へ寄与していること。また、若手を積極的に巻き込んで、OSS 開発や普及に関わる人材育成に有益なグループ活動となっていること。

2.3 スケジュール

7月15日(木)	推薦の受付を開始
8月31日(火)	推薦の締め切り
10月上旬	受賞者への結果通知
10月28日(木)	IPA フォーラム 2010 において表彰式を実施

2.4 審査に必要な資料請求等

審査の過程において、確認、連絡すべき事項が発生した際には、事務局より推薦者にご協力いただくことがありますのでご了承ください。

2.5 推薦区分について

日本 OSS 貢献者賞、及び日本 OSS 奨励賞それぞれ別に募集・推薦いただきますが審査の過程で表彰対象の賞を変更させていただく事があります。

3. 公表・表彰等

3.1 公表

審査の結果選ばれた受賞者については、IPA フォーラム 2010 で表彰式を行い、その後、IPA の Web ページに掲載します。

3.2 表彰等

日本 OSS 貢献者賞受賞者には盾の授与を行います。日本 OSS 奨励賞受賞者には賞状の授与を行います。団体・グループの場合は、代表者に対して賞状の授与をおこないます。

4. 推薦

4.1 推薦書記載事項

【日本 OSS 貢献者賞 候補者】

- 1 候補者 氏名 ※
- 2 メールアドレス
- 3 対象分野※
- 4 プロジェクトや活動の概要 ※
- 5 プロジェクトや活動の URL ※
- 6 推薦理由※

【日本 OSS 奨励賞 候補者】

- 1 候補者名またはグループ名称 ※
- 2 グループの場合は、その代表者 氏名
- 3 候補者ないしは代表者 メールアドレス
- 4 プロジェクトや活動の概要(概ね最近1年の活動を中心に) ※
- 5 プロジェクトや活動の URL ※
- 6 推薦理由 ※

【推薦者についての項目】

- 1 推薦者 氏名 ※
- 2 推薦者 メールアドレス ※
- 3 推薦者 電話番号
- 4 推薦者 所属団体名
- 5 連絡事項
- 6 候補者 同意状況 ※

※は必須項目です。

4.2 応募方法

所定の「2010 年度日本 OSS 貢献者賞 推薦書」もしくは「2010 年度日本 OSS 奨励賞 推薦書」を下記 URL の IPA の Web ページよりダウンロードし、必要事項を記入の上、E-Mail に添付して応募してください。

A. 2010 年度日本 OSS 貢献者賞 推薦書

<http://www.ipa.go.jp/software/open/ossc/2010/contribute/10kouken-suisen.txt>

B. 2010 年度日本 OSS 奨励賞 推薦書

<http://www.ipa.go.jp/software/open/ossc/2010/contribute/10shourei-suisen.txt>

E-Mail 送付先アドレス:

ossc-award2010@ipa.go.jp

(注 意)

- ・応募情報の取り扱いに関しては、IPA の「プライバシーポリシー」に基づき、適切な管理を行います。
「プライバシーポリシー」は
<http://www.ipa.go.jp/about/privacypolicy/index.html>
をご覧ください。
- ・他薦の場合は本人の同意を得てください。ただし本人に直接同意が得られない場合は、公開されている範囲の情報を推薦書に記入して応募してください。本人には IPA が同意の確認をします。
詳しくは、「4.1. 推薦書記載内容」を参照してください。

5. 審査委員会

	氏名	所属
委員長	竹内 郁雄	東京大学名誉教授
委員	石井 達夫	SRA OSS Inc. (PostgreSQL 開発者) (2008 年度日本 OSS 貢献者賞受賞者)
委員	岩岡 泰夫	日本電気株式会社 (日本 OSS 推進フォーラム座長)
委員	上田 理	ソニー株式会社 (CE Linux Forum、日本 OSS 推進フォーラム)
委員	梶本 一夫	パナソニック株式会社 (CE Linux Forum、日本 OSS 推進フォーラム)
委員	鈴木 友峰	株式会社 日立製作所 (日本 OSS 推進フォーラム)
委員	瀧田 佐登子	Mozilla Japan 代表 (2009 年度日本 OSS 貢献者賞受賞者)
委員	中野 秀男	大阪市立大学 教授
委員	まつもと ゆきひろ	株式会社ネットワーク応用通信研究所 (Ruby 開発者) (2005 年度日本 OSS 貢献者賞受賞者)
委員	吉藤 英明	慶應義塾大学講師 (USAGI Project) (2006 年度日本 OSS 貢献者賞受賞者)

(敬称略五十音順)

6. これまで受賞者

過去 5 回の受賞者は、次の通りです。

■「2005 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者(4 名、五十音順)

- ・鵜飼 文敏 (うかい ふみとし) 氏:Debian Project²の主要メンバー
- ・高橋 浩和 (たかはし ひろかず) 氏:Linux Kernel³開発への参画
- ・高林 哲 (たかばやし さとる) 氏:Namazu⁴, quickml⁵, gonzui⁶の開発/プロジェクト運営
- ・まつもと ゆきひろ 氏:Ruby⁷の開発/プロジェクト運営

■「2006 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者(4 名、五十音順)

- ・比嘉 康雄 (ひが やすを) 氏:Seasar⁸の開発
- ・平林 俊一 (ひらばやし しゅんいち) 氏:WideStudio/MWT⁹の開発プロジェクト
- ・山本 博之 (やまもと ひろゆき) 氏:Sylpheed¹⁰の開発
- ・吉藤 英明 (よしふじ ひであき) 氏:IPv6 プロトコルスタック「USAGI¹¹」の開発

■「2007 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者(4 名、五十音順)

- ・小山 哲志 (こやま てつじ) 氏:日本 PHP ユーザ会における技術者育成をはじめとした OSS 普及促進への貢献
- ・笹田 耕一 (ささだ こういち) 氏:Ruby を高速化するシステム YARV(Yet Another Ruby VM)の開発をはじめとした OSS への貢献
- ・佐藤 嘉則 (さとう よしのり) 氏:組み込み向け CPU への Linux の移植をはじめとした OSS への貢献
- ・松本 裕治 (まつもと ゆうじ) 氏:日本語形態素解析¹²システム「茶筌(ChaSen)」の開発をはじめとした OSS への貢献

² Debian Project:フリーなオペレーティングシステム(OS)を作成するプロジェクト。

³ Kernel:OS の中核部分。CPU、メモリ、ディスク、入出力デバイス等を制御し、アプリケーションプログラムの実行管理を行う。

⁴ Namazu:日本語を含む任意の文字列でファイル群の全文検索を行うソフトウェア。

⁵ quickml:手軽にメーリングリストを開設/消滅できる、管理が簡単なメーリングリストシステム。

⁶ gonzui:ソースコードに特化したソースコード検索エンジン。

⁷ Ruby:まつもと ゆきひろ氏が開発したオブジェクト指向スクリプト言語。

⁸ Seasar:国産オープンソースの Java 開発フレームワーク。

⁹ WideStudio/MWT:クロスプラットフォームの GUI のアプリケーションソフトウェアを構築するための統合開発環境。

¹⁰ Sylpheed:軽量かつ高機能の OSS 電子メールクライアント。

¹¹ USAGI:日本で開発されて Linux で動作する IPv6 対応 TCP/IP ソフト。

¹² 日本語形態素解析:日本語文を形態素に分割し、品詞、読みがなの付与、統計情報を取得できる機能。

■「2008 年度日本 OSS 貢献者賞」の受賞者(4 名、五十音順)

- ・石井 達夫 (いしい たつお) 氏: PostgreSQL¹³の開発、発展、普及に大きく貢献
- ・奥地 秀則 (おくじ よしのり) 氏: ブートローダ GRUB¹⁴の主要開発者で、GRUB2¹⁵では中心となって、設計・開発に携わる
- ・中野 雅之 (なかの まさゆき) 氏: Firefox¹⁶の開発に関わり、日本語入力システムとの連携機能等の実装に貢献
- ・宮原 徹 (みやはら とおる) 氏: 「オープンソースカンファレンス¹⁷」を立ち上げ、中心的な立場で活動をリード

■「2009 年度日本 OSS 貢献者賞・日本 OSS 奨励賞」

□日本 OSS 貢献者賞 受賞者(4 名、五十音順)

- ・小崎 資広 (こさき もとひろ) 氏: 日本の Linux カーネル開発量の拡大へ貢献
- ・瀧田 佐登子 (たきた さとこ) 氏: Firefoxをはじめとする Mozilla¹⁸製品普及における中心的活動に貢献
- ・フェルナンド ルイス バスケス カオ 氏: linux カーネル開発について、特に「カーネルクラッシュ ダンプ」¹⁹と、「ディスク I/O 制御／仮想化」²⁰に貢献
- ・本田 茂広 (ほんだ しげひろ) 氏: PostgreSQL を中心に日本語ドキュメント整備に貢献

¹³ PostgreSQL: 代表的なOSSオブジェクト・リレーショナル・データベース管理システム。

¹⁴ GRUB (GRand Unified Bootloader): GNU プロジェクトにより開発された高機能のブートローダ。

¹⁵ GRUB2 (GRand Unified Bootloader): GRUB のバージョン 1.9 系以降を指す。

¹⁶ Firefox: OSS の代表的な Web ブラウザ

¹⁷ オープンソースカンファレンス: オープンソースのコミュニティや協賛企業、後援団体による、全国規模で行うオープンソース関連のセミナーや展示

¹⁸ Mozilla: フリーソフトウェア及びオープンソースプロジェクトの名称また Mozilla Foundation を示す。

¹⁹ カーネルクラッシュ ダンプ: オペレーティングシステムの信頼性を高めるために、OS内部 の不具合が あった場合にその内部情報を記録して解析可能にする機能。自己不具合時の機能 のため、実現が難しい。

²⁰ ディスク I/O 制御／仮想化: ハードウェアやオペレーティングシステムから独立して複数・異種類のオペレーティングシステムや動作環境を提供するための仮想化技術を適用した場合 に、仮想化された環境における性能を担保するために、データを格納する固定 ディスクとの入出力を仮想マシンモニター・ホストオペレーティングシステムでも制御可能にする技術。

□日本 OSS 奨励賞 受賞者

個人(6名、五十音順)、

- ・新井 紀子 (あらい のりこ) 氏:OSS の教育用ポータル向け CMS²¹「NetCommons²²」を開発、公開
- ・安藤 祐介 (あんど うゆうすけ) 氏:Web アプリケーション開発フレームワーク CakePHP²³コミュニティの日本での発展に寄与
- ・新藤 愛大 (しんとう よしひろ) 氏:BeInteractive!というサイトで ActionScript/Flash²⁴に関する技術情報を発信し普及・啓蒙に貢献
- ・高木 正弘 (たかぎ まさひろ) 氏:PHP²⁵のマニュアルの日本語翻訳に精力的な活動を実施
- ・寺島 広大 (てらしま こうだい) 氏:運用監視ソフトウェア ZABBIX18²⁶の日本コミュニティの代表を努め普及に貢献
- ・林 拓人 (はやし たくと) 氏:独自の Cyan²⁷や Yellow 言語²⁸を開発公開

団体(2団体、五十音順)

- ・山形県立 寒河江工業高等学校 情報技術科:オープンソースソフトウェア環境の体験等をとうして、生徒・教員全体の情報リテラシー向上を寄与
- ・LOCAL (ローカル):北海道におけるユーザ会、勉強会などの技術系地域コミュニティの活動を支援

以上

²¹ CMS:Web コンテンツを構成するテキストや画像などのデジタルコンテンツを統合・体系的に管理し、配信など必要な処理を行うシステム。

²² NetCommons:グループウェアを統合したコミュニティウェア。

²³ CakePHP:CakePHP は PHP 用の高速開発フレームワーク。

²⁴ ActionScript/Flash: Adobe 社が提唱する、グラフィカルな Web アプリケーションを実現する実行環境技術。そのアプリケーション記述言語が ActionScript であり、Web で人気のある Javascript 言語と同様に ECMA Script 標準に準拠している。

²⁵ PHP:OSS のスクリプト言語。主に Web サイトやサービスを作成するのに用いられる。

²⁶ ZABBIX:サーバ、ネットワーク、アプリケーションを監視するためのソフトウェア。

²⁷ Cyan:Lisp の S 式とマクロの分離を試みた発展途上の先進的プログラミング言語。

²⁸ Yellow:継続を中心とする評価システムを実装した発展途上の先進的プログラミング言語。